

「夢育」：一人ひとりの子どもが、自分の中で「夢」を育みながら、それに挑戦していく経験を通して、「意欲」や「自信」などの「自分を高める力」を養っていく教育（岡山県教育委員会）



安全安心な人間関係で築かれた家庭は、子どもたちにとって「心の安全基地」となり、非認知能力、夢育のベースにもなります。これを夢育の視点で表現するなら「夢育基地」でしょうか。「わが家のすこやか日記」は、まさに「夢育基地」のエピソード集として親しまれていますが、一方で「そんな余裕はない」「現実ほど遠い」という声も聞こえてきます。そこで、皆さんの「夢育基地」の実現に向けて、少しでもお役に立てればと思い、日記から見える夢育ポイントを紹介します。



夢育アドバイザー（岡山県）中山芳一



作品

小学生部門

わたしの家では、一週間ぶんの夕食のしょくごんだてを、みんなで考えます。その方が、おかあさんもたすかるし、じぶんのたべたいものをリクエストできるから、うれしいです。休みの日には、一週間のしょくごいを、みんなでスーパーに買いものに行きます。カレーやぎょ

うざを、かそくてつくったりもします。わたしは、その時間が大好きです。

今週のこんだて

マンガ/高野優

注目!



夢育ポイント

子どもの食事で困るのは、「好き嫌い」ですよね。「無理矢理食べさせる」「食べないなら食事抜き」なんてことは、虐待になってしまいます。でも、好きな物だけ食べているのも、栄養バランスなどを考えると心配になります。本当に悩ましいところです。そこで、ヒントにしたいのが、この日記!

このエピソード、みんなで考えた献立なので、子どもは「いらない、食べたくない」とは言えなくなります。自分が食べたいものを食べるためには、家族の食べたいものも受け入れる。でなければ、このシステムは崩れてしまいます。子どもの「いやいや」をなくすには、子どもを当事者にするのがいいですね。食事以外でも使えそうです。参考にしてみてください。(中山芳一)